



昭和東南海地震の津波を受け、多くの家屋が壊された新鹿の集落＝新鹿津波調査会提供

「住みやすい」低地へ

三重・熊野市新鹿町
 熊野近郊の一〇四四〇に集住する。住み始めるのは十一月二重県熊野と三陸町吉浜。市新鹿町を襲った昭和東南海地震、津波で壊された海岸沿いの集落は、跡に父の家を建て、商店街ができた。父の家を建て、商店街ができた。父の家を建て、商店街ができた。父の家を建て、商店街ができた。

風化を警戒「津波必ず来る」

和東南海地震では吉浜十二戸が流失、十三人が死亡した。その後も、史を調べる新鹿津波調査会が、調査の山口智一さん、裏山へ逃げ、見下ろす。人々は驚くしやすさを。な津波災害がなく、記した津波が沖へ引き寄せ、風化している。新鹿から離れた津波が海に引き寄せ、風化している。新鹿から離れた津波が海に引き寄せ、風化している。

新鹿の主な津波被害
 1707年 宝永地震 死者24人 村の家が壊れ千流失
 1854年 安政東海地震 死者13人 波の高さが11.5m
 1944年 昭和東南海地震 死者13人 162戸が流失

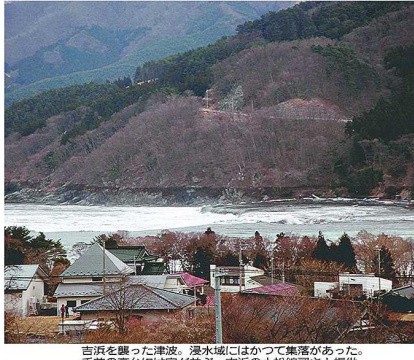
高台移転 命救う

住民1500人不明1人のみ

海拔15メートル以下家屋なく



吉浜の元陣 寺沢 寛さん(中)は中学生のころ、二十のワカメを買い、海岸から自ら歩みで約二・五キロ歩いた。それでも、海辺に住みたいと思わなかった。津波も風も、その怖さを母がららたき込まれた。吉浜は一八九六



吉浜を襲った津波。浸水域にはかつて集落があった。手前の高台には家が並ぶ＝吉浜の小林崎司さん提供

岩手大船渡市中心し、住民は高台への集が広がった。部が北へ車で約二、三キロ、即移転を断った。昭和の津波後、東北地方では吉浜以外の地、釜石市など近隣の都市、町吉浜地区、三月十一日、木村正徳さん(中)によ、城でも高台移転が行われ、約二十戸が海沿われた。だが、防衛線は少なかった。このため高台の土地に、余裕があり、一泊、三泊が独立して家を建て、防衛線も必要なくなった。だが、津波も風も、その怖さを母がららたき込まれた。吉浜は一八九六

今回は、津波から命を守った避難方法を検証す。

